



イワナ産卵図／狼林 画



デジタル標高地形図「東京都区部」の一部 (一財)日本地図センター 提供

# かわはく No.45

## CONTENTS

冬もかわはくで楽しもう・冬の企画展案内	2
冬もかわはくで楽しもう・スロープ展示予告	3
冬もかわはくで楽しもう・連携展のご案内	3
かわはく開館15周年記念イベント開催報告	4
かわはくキッズキャンプを実施して	4
モノリスとは？ 土の世界に目を向けて	5
平成24年度特別展「今だって氷河時代～埼玉からさぐる気候変動～」開催報告	6
秋期企画展「荒川のめぐみ 田んぼのものがたり」開催報告	7



# 冬の企画展案内

かわはくでは冬の間、少し大人向けの展示を開催します。冬も是非かわはくでお楽しみ下さい。



## 11月企画展

### 埼玉ふるさと野菜の版画＋写真アート展

2012年11月23日(金)～12月2日(日)

ふるさと野菜とは各地で古くから生産利用されてきた在来品種です。地方野菜、伝統野菜などとも呼ばれ、近年ではブランド化されている物もあります。埼玉県で特産化されている品目は少ないですが、岩槻ネギや埼玉青なす、くわいなどがあります。今回は、埼玉のふるさと野菜を版画と写真で紹介します。他にも、江戸東京野菜、フルーツ野菜や南蛮野菜など荒川の恵みを受けた野菜を紹介します。

また、版画と写真を刷る台紙は、埼玉伝統工芸の一つである東秩父和紙「細川紙」を使用しています。「細川紙」とは、楮（こうぞ）と言う植物の樹皮繊維を使ってつくった和紙です。この「細川紙」は、紙の密度が高く紙面に毛羽立ちが生じにくくきわめて強靱な紙とされながらも、上品な風合いを持ちます。(研究交流部 堀 佳子)

## 1月企画展

### 地図からみえる世界

2013年1月12日(土)～2月3日(日)

人は、古来より地図をつくり、利用してきました。古代の地図をみると、その当時の世界観を知ることができます。日本で初めて実測した日本地図を作ったのは、伊能忠敬を中心とした測量隊で、その地図は「伊能図」とも言われています。

昔の地図と今の地図を見比べると、昔、そこはどうなっていたのかを知ることができます。また、実際の地面は高低差がありデコボコしていますが、地図は平面なので、この高低差をなんらかの方法で示してあります。さらに、地図に示された地形の状況から、災害予測を行うこともできます。このように、地図が教えてくれることはじつにたくさんあります。

展示では、古地図などから地図の歴史を紹介し、伊能図（レプリカ）や、明治初期に作られた迅速図と現在の航空写真、微地形がよくわかるデジタル標高地形図等から荒川流域をたどります。その他に、赤青メガネで3Dに見える地図や、視覚障害者のための触地図などさまざまな地図を紹介します。関連イベントも開催します。(研究交流部 杉内由佳)

## 12月企画展

### 秩父イワナと荒川水系の自然生物写真絵画展 ～ネイチャー＆ワイルドライフアート・ARAKAWA～

2012年12月18日(火)～2013年1月27日(日)

荒川水系で見られる花や昆虫、野鳥や動物などの自然生物を写真絵画で表現するワイルドライフアート展を開催します。荒川水系の美しい自然を絵画で堪能して下さい。

今回の絵画展では特に秩父イワナに着目。溪流に棲み、時に人を魅了するイワナとイワナをとりまく自然環境や生物の世界を、絵画を通して紹介します。

企画展関連イベントとして狼林氏（日本理科美術協会会員）によるワークショップも開催します。親子で参加可能で、手ぶらでOKなので、気軽に参加して下さい。(研究交流部 森 圭子)

ワークショップ「秩父イワナを描こう！」

12月23日(日) 11:00～、13:00～

1月12日(土) 11:00～、13:30～

各回45分程度 各回定員20名 参加費100円

一ヶ月前より事前予約を受け付けます。

## 2月企画展

### ボタニカルアート師弟展

#### ～太田洋愛、杉崎夫妻とその門下生～

2013年2月9日(土)～3月3日(日)

毎年恒例となったボタニカルアート展ですが、今年度は師弟展です。日本における近代ボタニカルアートの先駆者の一人である太田洋愛画伯から杉崎夫妻、そしてその門下生へと引き継がれてきたボタニカルアートの系譜を通して、その魅力をお伝えします。太田洋愛画伯の未公開原画10点あまりも展示しますので、是非ご来場下さい。

企画展関連イベントとして杉崎夫妻によるワークショップも開催します。手ぶらで参加OKです。夫妻とボタニカルアートの魅力などについて語り合うコーヒータ임も設けます。初心者の方も、経験者の方もどうぞ気軽にご参加下さい。

(研究交流部 森 圭子、羽田武朗)

ワークショップ「ボタニカルアートの描き方」

2月11日(月・祝) 13:15～15:30

定員28名、参加費500円(材料費+コーヒ一代)

一ヶ月前より事前予約を受け付けます。



## スロープ展示予告

### 「第4回関東地区博物館協会共同企画展 荒川の旧橋と渡し」

冬もかわはくで  
楽しもう

展示期間：平成24年12月4日（火）～平成25年3月3日（日）

かわはくでは、12月4日（火）からスロープ展示「荒川の旧橋と渡し」を開催いたします。今回のスロープ展示は、第4回関東地区博物館協会共同企画展「河・川・かわ」にも参加している展示で、期間中はスタンラリーも実施しています。

今回の展示では、展示のタイトルにもあるように、荒川（隅田川も含む）の新・旧の「橋」や「渡し場」に改めてスポットをあてます。

現在の荒川（支流や隅田川を含めて）には、源流から河口まで実に多くの「橋」が架けられています。これら荒川に架かる橋は、昭和の初期に架けられたものからつい最近架けられたものまで実に様々で、また現在橋が架けられている場所の多くが、実は昔は渡し場だった場所であったりもします。

今回の展示では、①「浮世絵に描かれた渡し場」、②「古写真に見る渡し場や橋」、③「今はなき旧橋」、④「現在も残る明治～昭和初期に建造された旧橋」などをテーマとしながら、現在橋が架かっている場

所の昔の姿と現在の姿を紹介し、荒川流域の今昔を紹介いたします。また、荒川流域ではないのですが、埼玉県内に現在も残る渡し場の紹介もあわせて行います。

本展示を通じて、「橋」という視点から、荒川の現在の姿とかつての姿を知っていただければと思います。  
（研究交流部 羽田 武朗）



●初代秩父橋の橋脚<右>と旧秩父橋<左>（秩父市）  
【この橋の隣に現在の秩父橋と渡し場の跡がある】

## 連携展のご案内

当館では「川」をテーマに関係機関との連携で企画展を開催しています。

### ●彩の国 環境地図作品展

2012年12月4日～12月16日

環境地図作品展は立正大学地球環境科学部との連携で11回目を迎えました。生きものや街の様子など、身近なテーマを地図で表現しています。応募者は小・中・高校生と幅広く、優秀作は全国大会へ進みます。入賞作品30点を展示します。

### ●荒川図画コンクール

2012年12月22日～2013年1月6日

荒川図画コンクールは国土交通省荒川上流河川事務所との連携による作品展です。県内の小学生を対象に荒川本流・支流や流域のダムなどの風景を題材としています。かわはくでは入賞作品120点全てを展示します。



絵：埼玉県立川の博物館館長賞（一年生）  
寄居小学校 服部大志くんの作品

### ●川の国埼玉フォトコンテスト

2013年2月5日～2013年2月24日

川の国埼玉フォトコンテストは埼玉県・社団法人埼玉県物産観光協会との連携による写真展です。埼玉県内の水辺の観光スポットをテーマに一般部門、ジュニア部門に分かれ、幅広い層から応募がある写真展です。入賞作品約50点を展示します。

（研究交流部 藤田宏之）



今年はこのイベントも実施しました!

## かわはく開館15周年記念イベント開催報告

埼玉県立川の博物館はお蔭様で今年の8月1日に開館15周年を迎えることができました。今年の夏休みはこの15周年を記念して、7月29日からいくつかの特別イベントを開催しました。

多くの方に参加していただいたのはポストイットアートという、付箋をつかった作品づくりで15周



ポストイットアート、まもなく完成

年の文字とカワシロウの絵を描く、というものでした。いくつかの色の付箋に名前などを書いて決まった所に貼っていくと、文字と絵が見えてきます。一ヶ月近くをかけてのべ6000人余りの人に参加していただきました。

また、普段は随時電話などで相談を受けている夏休み自由研究の相談会を開催しました。進め方、まとめ方についてのよろず相談会に加え、こんな研究もできますよ、というテーマ別(地図作り、昆虫の飼い方、水棲生物の飼い方、氷の実験)の相談会も開催しました。役にたったかな?

他にもペットボトルと水を使った実験ワークショップなどもありました。これからも川の博物館を楽しんで下さい。(研究交流部 森 圭子)

## かわはくキッズキャンプを実施して

宿泊型の体験イベントを8月10日~12日の2泊3日で実施しました。

8月10日13:00に公民館に集合し、簡単な自己紹介をすませて近くにある「金尾山ハイキング」に行きました。帰りがけ、白髪神社で「てっこぼこ」を探しました。夕食後、「ナイトハイク」で再度金尾山へ。ろうそく1本で暗闇を体験しました。そこでは羽田学芸員に時代によって暗さがちがう、というお話をしてもらい「ろうそく1本でも十分明るい」という発見がありました。

翌日11日は「早朝ハイク」で井戸まで行き、朝の新鮮な空気をたっぷり吸ってきました。朝食を済ませ、メインイベントである「川のぼり」に出発。全員が頭まで水につかりながら川をのぼりました。途中で昼食。森学芸員が運んでくれたおにぎりや塩でもんだだけのキュウリのおいしかったこと! お昼を食べ体力が回復したところで滝へ行ってあそ



たきつぼへジャンプ!

びました。滝の高さは約3m!ここでも全員が飛び込むことができ、満足して夕立に追われながら公民館に戻りました。夜は藤田学芸員による「カエル観察ウォーク」杉内学芸員による「星空観察・星座早見盤を作ろう」でした。残念ながら曇り

のち雨で星は観察することはできませんでしたが星空のことを勉強できました。

翌朝12日は「朝日におはようウォーク」で金尾山へ…の予定でしたが、川のぼりの疲れが出たのか皆さんぐっすり。森学芸員と二人で金尾山の朝日を眺めてきました。その後、「体験の発表・キャンプのまとめ」をし、昼食の「うどん作り」を行いました。地元の方にうどんの作り方を教えてもらい、自分たちで生地をのぼしてうどんにしました。昼食を食べ解散。みんなとってもいい顔で帰って行きました。ぜひこの体験を他の皆さんにも話してくださいね。



集合写真

博物館としては初めての試みでしたが、周囲の皆さんの力をお借りして事故もなく無事に終了することができました。参加者の皆さん、スタッフの皆さんありがとうございました。

(研究交流部 石井克彦)



## モノリスとは？ 土の世界に目を向けて

モノリスという単語は、アーサー・C・クラークのSF「2001年宇宙の旅（原題 2001: A Space Odyssey）」に、不思議な長方形の厚板の石（モノリス）として登場します。モノリスは、突如地上に現れて、人間の祖先のThe man-apes（類人猿）を教育し、道具を使えるヒトに進化させ、その後月、土星に次々現れて、人類のためにStar Gateを開くという設定になっています。このモノリスは一種のコンピュータですが、非常に印象的なSFの素材として使われています。1968年に映画にもなったので、ご記憶の方もいらっしゃると思います。

では、土壌モノリスとは何でしょうか？

地面に穴を掘って出来た側面を土壌断面といい、その土地の自然の歴史、人々の営みの歴史が刻み込まれている時間の履歴書となっています。しかしながら、それをひもとく方法は今のところ存在していません。前述の小説のようなコンピュータならひょっとするとひもとけるかもしれませんが。また、長方形の厚板の石の事をモノリスといますが、土壌断面を、プラスチックなどで固めてはがしたのもも土壌モノリスといいます。土壌モノリスは、研究調査の標本として、また、教育のために作られます。

収集された土壌モノリスは、日本では、沖縄のコーラルサンドの砂丘未熟土から、北アルプスの高山湿草土、北海道オホーツク沿岸の砂丘ポドゾル、各地の赤黄色土、褐色森林土それに黒ボク土まで、標高では0mから約2,300mまであり、国外では、北はロシアの北緯61度のポドゾル、南はニューカレドニアの南緯22度のオキシソル、高度的には南太平洋のバヌアツの標高0mの未熟土からブータンの4,300mの高山ポドゾルまで、その他世界的に肥沃で有名なロシアのチェルノゾーム、アフリカニジェールの乾燥地の真っ赤なUstipsammentic Paleustalfという土壌、ブータン各地の褐色森林土、フィリピンの赤色のアルティソルなどがあります。

これら土壌モノリスを専門に展示してある博物館は、世界的には、オランダにあるI S R I C（旧世界土壌博物館）やロシアのドクチャエフ中央土壌博物館などがあります。日本の土壌展示で、常

に見に行けるのは、上野の国立科学博物館の日本館に展示されているモノリスですが、土壌専用の展示コーナーではなく日本の各種気候下にある土壌として展示されており、日本のほとんどの土壌の種類を見ることが出来ます。新しい試みとして、美術館に展示する活動もしています。生まれ育ったときの記憶に、ふるさとの色、味それに匂いなどがあります。ふるさとの色では、森や田んぼの色と共に土の色が記憶に残ります。ふるさとの色は懐かしく癒しの色です。みなさんにとってほっとするふるさとの土の色は何色でしょうか？

今年の6月には川博の展示で、7月から9月には新潟の大地の芸術祭の展示会で土壌モノリスを展示しました。2001年宇宙の旅のモノリスのように、私たちに進化は及ばさないまでも、少しでも過去の履歴書である足下の土壌に目を向けてもらいたいと思います。

（館長 平山良治）



ドクチャエフ中央土壌博物館の展示風景



国立科学博物館の展示風景



新潟市美術館の水と大地の芸術祭での展示風景



## 平成24年度特別展

# 「今だって氷河時代～埼玉からさぐる気候変動～」開催報告

2012年7月14日（土）～9月2日（日）の期間、平成24年度特別展「今だって氷河時代～埼玉からさぐる気候変動～」(後援：国立極地研究所・日本第四紀学会)を開催しました。展示は、メインとなる第二展示室のほかにリバーホールや溪流観察窓でも行いました。さらに、「氷河の魅力と氷期の遺存種」と題した特別展のサテライト展示を、6月5日（火）～9月23日（日）の期間、第一展示室のスロープ展示として開催しました。

約260万年前から始まった第四紀は氷河時代とも言われますが、展示ではまず、第一章「今だって氷河時代」として、この氷河時代の定義について触れ、今年日本にも氷河があると認定された、立山連峰の地形模型を展示。また、海水面が現在よりも下がっていて海岸線の様子が現在とは異なる、最終氷期の様子を描いた大型の地球儀等を展示しました。

第二章は「氷河時代をさぐる」として、最終氷期を代表する動物であるマンモスのキバや頭骨の化石、北方系の動物であるオオカミやヘラジカの剥製等の展示を行いました。これらは今回の展示の中で、特に子どもたちの人気が高かったようです。また、アンケート結果によると「火山灰の火山ガラスをみてみよう」や「南極大陸を3Dでみてみよう」というハンズオンコーナーが印象に残った方も多かったようです。

第三章は「埼玉でも氷河時代」として、埼玉県内で発見された最終氷期のナウマンゾウやヒメバラモミの化石、細石刃等の石器を展示。また、後氷期の黒浜式縄文土器（蓮田市出土）等も展示しました。

特別展開催期間中のリバーホールには、マンモスのキバのレプリカをハンズオン展示しました。

溪流観察窓には、埼玉県の魚であるムサシトミヨを7月末から約1ヵ月間の期間限定で、生体展示しました。実は、ムサシトミヨは、氷期に分布を広げ現在まで生き残っている「氷期の遺存種」なのです。

また、関連イベントも多数開催し、展示期間中の毎週土曜日には、当日参加型のワークショップイベントも開催しました。週替わりで、南極探検隊の防寒着の試着や、マンモスのポップアップカード作り、暖かいコマと寒いコマをくり返す氷河時代すごろく、南極大陸の氷河の立体視、南極の氷河の水を実際に

触れるイベントを行いました。講演会は、講師に立山カルデラ砂防博物館学芸員の福井幸太郎氏をお招きし、「現存する日本の氷河 北アルプス立山連峰」を開催。84名ものご参加をいただき、定員80名のふれあいホールは満席となりました。旧石器人の家づくり体験を行うイベントは、屋外のファミリー広場で2回行いました。

展示やイベントに足を運んで下さったみなさま、ありがとうございました。（研究交流部 杉内 由佳）



第二展示室の様子1（手前から立山の地形模型、南極探検隊の防寒着、最終氷期の地球儀など）



第二展示室の様子2（左からオオカミ・ヘラジカの剥製、ケナガマンモスのキバと頭骨）



満席の講演会場



# 秋期企画展

## 「荒川のめぐみ 田んぼのものがたり」開催報告

2012年9月22日～11月14日におこなわれた秋期企画展「荒川のめぐみ 田んぼのものがたり」について報告します。

### ●第二展示室

メイン会場である第二展示室は、まず田んぼの基である「土」についてモノリス標本を中心に解説し、荒川流域の水田の始まりと現在の稲作を紹介しました。そして、埼玉県郷土の米として普及に努めている「彩のかがやき」など、荒川流域で作付されている品種を標本などで紹介しました。

さらに、今回の目玉展示資料である新型乗用田植機を導入に展示し、稲作の機械化への過渡期の田植機や刈取機を展示しました。また、「田んぼを守る工夫」というテーマで、かかしや鳥よけグッズなどを配置した原寸大のジオラマを作成し、親しみやすく楽しい空間を演出しました。

さいごに、「豊かな自然環境としての田んぼ」というテーマで、田んぼの生きものを標本やレプリカで紹介しました。また、県内随一の美しい景観の棚田である、横瀬町寺坂棚田をジオラマや写真パネルで紹介しました。

### ●リバーホール

リバーホールは田んぼの生きものの生体展示として、トウキョウダルマガエルなどカエル4種を展示しました。さらに、数十年前は当たり前に見ることができましたが、めっきり数を減らしたメダカ、ドジョウ、マルタニシをディスプレイ水槽で展示しました。

### ●イベント

関連イベントとして、10月20日に「田んぼの生きもの観察【秋】」を素晴らしい秋晴れの中実施し、バッタ、カマキリ、ヘビなどを観察しました。

さらに同日、「彩のかがやき新米おにぎり試食会」を開催しました。熊谷農業高校のつくった減農薬の刈りたて、精米したて、炊き立ての美味しいお米でつくったおにぎりが来館者にふるまわれました。

### ●スロープ展示

第一展示室のスロープ展示も企画展に関連した展示として「カエルたちの田んぼ暮らし」を開催しました。カエルをテーマとした写真の第一人者である自然写真家・前田憲男氏が、田んぼでのカエルたちの四季の暮らしぶりを写真で表現しました。

(研究交流部 藤田宏之)



新型の乗用田植機



かかしジオラマ



田んぼの生きもの観察会の様子

### 12月

11/23/金・祝～12/2/日

11月企画展「埼玉ふるさと野菜の版画+写真アート展」

12/4/火～12/16/日

企画展「2012彩の国環境地図作品展」

12/18/火～1/27/日

12月企画展「秩父イワナと荒川水系の自然生物写真絵画展」  
-ネイチャー&ワイルドライフアート・ARAKAWA-

12/22/土～1/6/日

平成24年度荒川図画コンクール

9/日

かわはくであそぼう・まなぼう「クリスマスかざりづくり」

時間：13：30～15：30

内容：クリスマスにかざれるカードなどを作ります。

15/土

かわサタ自然教室「化石のレプリカづくり」

時間：13：30～15：30

費用：300円（材料費）

定員：20名（申込順）☎

内容：本物とそっくりのレプリカ（模型）標本をつくりま

22/土～25/火

かわはくクリスマスファンタジー

時間：夕暮れ～閉館まで

内容：かわはくでささやかなイルミネーションやクリスマス飾りを楽しめます。

23/日

企画展関連イベント「秩父イワナを描こう」①

時間：11：00～13：30

費用：100円（材料費）

定員：20名（申込順）☎

内容：イワナの特徴について学びながら、水溶性の絵の具でイワナを描くことに挑戦します。描いた絵は記念に持ち帰り可能で、親子で参加できます。

### 1月

1/12/土～2/3/日

企画展「地図からみえる世界」

10/木

荒川ゼミナール・大人の遠足「荒川河口を見る」

時間：13：00～16：00（予定）

費用：100円（保険料） 定員：20名（申込順）☎

内容：荒川河口を巡視船に乗って見学します。  
JR赤羽駅集合・解散

12/土

企画展関連イベント「秩父イワナを描こう」②

12月23日(日)の情報と同じになります。

13/日

企画展関連イベント

ミュージアムトーク「デジタル標高地形図ができるまで」

時間：11：00～、14：00～

講師：津沢 正晴 氏 [(一財)日本地図センター]

場所：川の博物館 第二展示室

費用：無料 定員：各回20名（申込順）☎

内容：展示室内で、荒川地域のデジタル標高地形図を見ながらお話しします。(1回30分程度)

13/日

かわはくであそぼう・まなぼう「お正月遊び」

時間：10：00～12：00、13：00～15：00

内容：コマまわしやカルタなど伝統あそびを体験できます。

26/土

かわサタ自然教室「かわはくでバードウォッチング」

時間：13：30～15：30

費用：100円（保険料） 定員：25名（申込順）☎

内容：かわはく周辺で野鳥を観察します。

27/日

企画展関連イベント

講演会「火山災害・地震災害・水害と地図の役割」

時間：13：30～15：00

講師：関口 辰夫 氏 [国土地理院]

場所：川の博物館 ふれあいホール

費用：無料 定員：80名（申込順）☎

内容：地形の状況から読み取れる災害予測について紹介します。

### 2月

2/9/土～3/3/日

2月企画展

「ボタニカルアート師弟展～太田洋愛、杉崎夫妻とその門下生～」

2/5/火～2/24/日

第5回「川の国埼玉フォトコンテスト」

10/日

かわはくであそぼう・まなぼう「おひなさまづくり」

時間：13：30～15：30

内容：紙を使っておひな様作りに挑戦します。

11/月・祝

企画展関連イベント「ボタニカルアートの描き方」

時間：13：15～15：30

費用：500円（材料費・コーヒー代）

定員：28名（申込順）☎

内容：杉崎夫妻を講師に招き、ボタニカルアートの描き方の基本についてのワークショップを行います。最後にコーヒーを飲みながら夫妻とボタニカルアートの魅力についてお話するコーナーもあります。

16/土

かわサタ自然教室「火山のみみつ 実験教室」

時間：13：30～15：30

費用：200円（材料費） 定員：20名（申込順）☎

内容：食品を使った火山の実験と、顕微鏡を使った火山灰の観察を行います。

### 3月

3/16/土～5/6/月・休

平成24年度春期企画展「金魚」

9/土

かわサタ自然教室「カエルの卵を観察しよう」

時間：13：30～15：30

費用：100円（保険料） 定員：20名（申込順）☎

内容：早春に産卵するカエルの卵を観察します。

10/日

荒川ゼミナール・大人の遠足「都市部を流れる荒川を散歩しよう」

時間：10：00～16：00（予定）

費用：100円（保険料） 定員：20名（申込順）☎

内容：河川がつくった地形と、荒川の治水・利水を学びます。東武東上線朝霞駅集合、約10km歩きます。

24/日

かわはく春祭り

時間：10：00～16：00

内容：各種子供向けイベントを開催予定です。

24/日

かわはくであそぼう・まなぼう「科学あそび」

時間：13：30～15：30

内容：液体窒素を使った実験のデモンストレーション見学や、静電気あそびを体験できます。

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、Eメールでお申し込みください。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の4日前までです。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332

Eメール/web-master@river-museum.jp/



彩の国さいたま

2012年11月22発行

